

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 定刻の時間となりましたので、ただいまより平成27年11月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行いたしたいと思っております。

なお、ご質問の際には、お手数ですが、ご自席のマイクのスイッチを入れていただき、ご質問の後は切っていただきますようお願いいたします。どうかご協力よろしくお願いいたします。

終了は14時30分を予定しております。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 皆さんよろしくお願い致します。本日、市政功労者6名の皆さまの表彰をさせていただきました。また、10月には、4日に駅前広場のオープニング、それから14日には赤レンガ倉庫のリニューアルということをさせていただきまして、おかげさまで順調に赤レンガ倉庫のほうはご来場の方をふやしているというふう聞いております。さらなる観光資源の掘り起こしを継続して行っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

本日の事業の発表なんですけれども、事業につきましては、平成27年度の除雪排雪計画についてであります。

11月15日から翌年3月31日までを除雪期間としまして、除雪排雪計画を立てて実施いたします。除雪作業につきましては、車道及び歩道の除雪を敦賀市土木協会、敦賀市管工事組合、造園組合その他に委託し、実施いたします。

車道除雪は、通常の場合、積雪深が10センチに達した場合に出動し、深夜から早朝にかけ、通勤通学時間に間に合うよう午前7時ごろには作業を終える予定で行いますが、大雪や明け方の降雪により遅れる場合もあります。歩道除雪は、昨年同様、県と連携して積雪深が20センチに達した時点で取りかかることといたします。

除雪機械の台数強化につきましては、今年度も除雪機械購入費補助金を活用し、除雪委託業者が新たに10台除雪機械を購入いたしました。このことにより除雪作業の時間短縮を図れるものと考えております。

また、除雪の作業効率向上を図るため、空き地や耕作放棄地を冬の間だけ雪置き場として使用できるよう各区長に協力依頼を行っております。

排雪場所につきましては、和久野橋下流及び敦賀市総合運動公園西側駐車場の2カ所を指定しております。

事業の発表につきましては以上でございます。

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、ただいま発表いたしました項目について質問を受けたいと思います。

最初に、幹事社様、よろしくお願い致します。

【記者】 除雪路線延長の車道というのは、全て市道と捉えていいんでしょうか。

あと、例年、積雪によって通行どめが発生し得る場所というのがあれば、押さえておきたいんですけれども。

【建設水道部長】 通行どめになる場所というのは、特に確認はしてございません。昨年というか、今年の2月になるんですが、高速道路が通行どめになって、国道8号が通行どめになったということで、国道8号、敦賀市の田結から越前市春日野まで通行どめになったわけなんです、その間の除雪方法等も国交省さんがいろいろ考えていらっしゃると思いますので、とりあえずその推移を見たいというふう考えております。

また、今度は訓練もやるというふう聞いておりますので、また見学していただければいいのかなというふう思っております。

以上です。

【記者】 今の回答に関して、訓練というのは、いつ、どういう内容で行われるということですか。

【建設水道部長】 訓練でございますが、11月10日13時から、場所は国道8号の南越前町赤萩から敦賀市の赤崎までの17キロ。一応1時から5時までの予定なんですけれども、実際には、通行どめにしますのが15時40分ごろから一旦通行どめにして除雪車を走らせる。Uターンの時間だけです。10分から15分ぐらいかなというふうに思っております。詳細については、国土交通省のほうから10月8日付でプレス発表が行われていると思いますので、そちらをご覧くださいければと思います。

以上です。

【記者】 ありがとうございます。

市の排除計画の概要に関してですけれども、15日から除雪設置期間ですかね。これに際して、何か出発式とかそういう催しはあるんですか。

【建設水道部長】 現在のところ、それは考えておりません。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。発表項目につきまして質問がありましたら挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思っております。これも幹事社様からよろしくをお願いいたします。

【記者】 高速増殖炉のもんじゅについてちょっと所感をお聞きしたいんですけれども、来月、12月8日にナトリウム漏れ事故を起こしてから丸20年になるんですけれども、その間、ほぼほとまってきたままで、なおかつ、今日、原子力機構の理事長が規制委員会の臨時会合に呼び出されて、今もずっと保安規定違反、不手際等がとまってないので事情を聞くということで呼ばれているんですけれども、市長の20年を迎えるけれどもほとんど動いてない、今後も動くめどが立っていないことに対する所感を伺えないでしょうか。

【市長】 もんじゅにつきましては、文科省からの説明を踏まえて、先週の原子力規制委員会において議論した中で、原子力機構にもんじゅを任せられないというような非常に厳しい意見が出たことも承知しておりますし、保安検査のたびに保安規定違反が確認されており、最近では重要度分類という安全上極めて基本的な部分で誤りがあったということで、保安検査で内容を説明できずに、報告徴収命令も出されたということで、もんじゅが非常に深刻な状況にあることは十分に承知しております。

また、規制委員会が本日、機構の理事長からも説明を受けて、改めて議論をするということですので、市としてもその対応を注視してまいりたいと思っております。

20年ということで、平成7年からとまっていますけれども市としますと、国策であるということがありますので、もんじゅが安全を最優先に本来の研究開発を再開できることを望んでおりますし、残された課題というのを全力で取り組んでいただきたいということを思っております。

ただ、規制委員会の動きというのはまた注視していきたいと思っております。

【記者】 追加なんですけれども、市長が先ほどおっしゃったように、規制委員会では、もんじゅを原子力機構に任せられないというような話で、委員4人だったか5人だったか、ほぼ全会一致したりしたんですけれども、市長がご就任後もいろんな問題起きていますけれども、原子力機構という組織に任せておけるんでしょうか。それとも何かお考えはございますか。それとも、歩みは遅いけれども改善の兆しが見えるのかどうかとか、そのあたり、どういうふうに見ておられるでしょうか。

【市長】 原子力機構に任せられるかどうかという判断、そこら辺、私は判断できないんですけれども、規制委員会がそういう懸念を持っているということに対しては、しっかりと頑張ってやってほしいなという気持ちを強く持っています。

原子力開発機構のほうも、努力して、前に進んでやろうとしていることはしているというふうに感じますので、その辺の判断はどうされるかというのは規制委員会が議論されることだと思っています。

【記者】 今の回答に関連して、機構が努力している姿も見えるというのは、どういう部分から感じられますか。

【市長】 私、就任して間もないので、現場へ行ったりして話をさせていただいたりということ

の中で、理事長もかわったり、副理事長もかわられたりしておりますけれども、その中で、新しい血を入れて改革しようという気持ちはすごく感じます。ただ、実際にそれが規制委員会が望むところまで達していないというのは事実だと思いますので、その辺でどういうふうな認識をするのかというのは規制委員会の判断かなと思います。しっかり指導して、安全を本当に確認できるという状態をつくっていただいて、前に進めていただきたいと思います。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社、質問がありましたら挙手をお願いしたいと思います。

【記者】 先ほどのもんじゅの件なんですが、市長は国策でもんじゅをやっているからというお話なんですが、国策で核燃料サイクルという中でもんじゅがあるんですが、全原協の会長として、もんじゅの必要性、核燃料サイクルの政策の必要性はどう感じていらっしゃいますか。

【市長】 会長としてというとなんか難しくなっちゃうんですけども。もんじゅがあるのは敦賀市だけなので、全体で各自治体持っているわけではないんですけども。

やっぱり原子力発電所を稼働すると、その後の廃棄物が出てきますので、その廃棄物の量の低減化とか安全性のアップとか、そういうことの中で核燃料サイクルというシステムが必要だということですので、それは進めていくべきものだと思います。

【記者】 4日の規制委の会合でどういう結論が出るかわからないんですが、もんじゅが万が一、廃炉になると、もんじゅが廃炉措置になって、敦賀からもんじゅはなくなるということなんですが、敦賀にそれでももんじゅはあるべきですか。あってほしいとお考えですか。

【市長】 廃止措置がどうのこうのという議論自体はまだ早いんだと思っていまして、今、規制委員会から出ているのは、原子力機構に任せるかどうかという話の中で適切な組織を考える必要があるという議論になっていますので、そのところにはまだ来てないと思っていまして。

【記者】 今ほどのもんじゅの件なんですが、話出ていましたが、4日の日に規制委員会があつて何らかの対応が示されるのかなと思うんですけども、その後、例えば規制庁なり文科省なり機構なりから説明を受けられる場って何か設定されているんでしょうか。

【市長】 今の段階では設定はされていませんけれども、今後の状況を踏まえて考えていく必要があると思っていまして。

【記者】 例えば、4日中にどこかを呼ぶというお考えはありますか。

【市長】 今のところありません。

【記者】 もんじゅに関連してなんですけれども、いろいろ規制委員会側からの指摘の中で、今の原子力機構に任せておいてよいのかというような指摘が主に飛んでいると思うんですけども、市長あるいは全原協会長のお立場としても、例えば機構以外に任せられるところがあるのかというような考え方もあると思うんですけども、そのあたり、地元の市長としてはどのように見ていらっしゃいますか。

【市長】 機構に任せてやっつけられるかどうかという議論になるのかもしれませんが、じゃどこに任せばいいのということを逆にこちらのほうが聞きたい気持ちがあります。ですから、機械の特性もあるでしょうし、それぞれの炉の管理の仕方もあると思うので、一概にあっちはほうが上手でしょうとかそういうことにはならないんじゃないかと思っておりますけれども。その辺は結論を見ていくしかないのので、規制委員会のほうでどういう判断を出されるのかというのを注視するという形で今おります。

【記者】 そうなつた場合、例えば政府なり文科省なりから何か事前のお話であつたりとか説明といったようなものとか、そういったものは今のところ市のほうには入っていないということではないんですかね。

【市長】 それで結構です。

【記者】 同じように、もんじゅなんですけれども、先ほどからもんじゅ、機構に対してということだったんですけども、もんじゅの必要性を訴える人からは、規制委員会に対する不満だったり批判なんかも上がっていたりするの事実として、市長のお立場で、もんじゅをめぐる件について、規制委に対する不満に思っていることとか、ちょっとこれは納得いかないという部分はないでしょうか。なければいけないで結構です。

【市長】 もんじゅに関しては、ないです。

【記者】 じゃ規制委の対応について、理解はできるということですか。

【市長】 普通に審査をされているんだというふうには思っていまして、特別、何か違った審査を

してハードルを上げたりとかはされていないと思っているんですけども。

【記者】 全然違うんですけども、敦賀2号機、夏から秋に申請と言っていたのが秋がかなり深まってきたんですけども、今のところ報告は、めどとかその後は何か聞かれてないでしょうか。

【市長】 2号機申請ということを私らも待っておりますけれども、今の時点では聞いておりません。

【記者】 ちょっと話変わるんですけども、政府の秋のレビューに関してなんですが、11月11日から3日間、電源立地地域対策交付金について見直しというか検討されるというような報道がなされたんですけども、無駄遣いがないかどうかというような観点でレビューがされるということなんですが、交付金が俎上に上がったことについて、何かご所感がありましたら伺えますでしょうか。

【市長】 電源立地につきましては、皆さんどこもそうだと思いますけれども、大変厳しい財政状況でやってきていますので、その辺は十分に国のほうも理解していただきたいなと思っています。減らすのをやめてほしいです。

【記者】 せっかくの機会なので、いろいろお尋ねしますけれども、ご当選後、半年過ぎましたけれども、これまでにできたこと、できなかったこと。前市長が20年間にわたる市政かじ取りされていたので、なかなか色を出すのは難しい部分も、ぱっと出すのは難しい部分もあるかと思うんですけども、この辺は瀏上カラーを出せたんじゃないかという今までの総括と、今後こういう色を出していきたいというようなことを教えていただけないでしょうか。

【市長】 ありがとうございます。難しいですね。半年たちまして、皆さんお世話になりまして、ありがとうございます。

何もわからんまま、あちこちぶつかったりして頑張っておりますけれども、県に行きましても国に行きましても知らない方たちばかりで回っていますけれども、一生懸命ぶつかっていくと意外と応援して下さる人がいるなどというのを何となく感じ始めました。じゃ今、半年たって何ができたのかなというふうに思いますと、できたことって少ないと思いますが、大過なく一応市政が運営されていることは非常に皆さんのおかげで、ありがたいなと思っています。

もう一つは、個々に言いますと、アクアトムが県と話ができて前に進み出すことができました。あと、赤レンガ倉庫かと駅前広場というのは、前の方のお力なので、私の力でなくて進んでいることですが、今度、新幹線が来るということに関しての協議というのを本格的に今やっていますので、そういう協議に入っているところまでは、かなり進んだ気持ちになっています。

もう一つは、今まで予算がつかなかった筈の川についての対策とか、田尻から五幡までの道路の工事とかいう県の事業も少しふえたような気がしています。

この間、杉原千畝さんの関係で、大迫さんという方がお持ちだった当時のアルバムを手に入れることができましたので、その辺を絡めて今度、映画「杉原千畝」に対しての敦賀という位置づけを打ち出していけたらなというふうに思っています。

【記者】 今ご発言があった杉原千畝さんの件なんですけれども、世界記憶遺産の件とかというのは前から話出ていますが、今後どういうふうに進めていきたいという思いがありましたら教えてください。

【市長】 世界記憶遺産は2年に一回だと聞いていますので、八百津町さんに一回お話に行ってみたいなという気持ちはありますが、まだお話ができていけませんので、どうなります、こうなりますということが全くできない状態なので、世界記憶遺産については一回、八百津町さんと相談したいと思っています。

【記者】 具体的に、いつごろ八百津町さんとお話一度されたいとか、めどありましたら教えてください。

【市長】 今月中にはやりたいんですけども、あちらも忙しいみたいなので、今月中にはお会いしたいなと思っています。

【記者】 八百津町の町長とお会いになるということですか。

【市長】 そうですね。

【記者】 あと、会う狙いというのはどういうところなんですか。敦賀市単独での話、これから

登録に向けての話なのか、それともまた別なのか。

【市長】 一緒にできることを一回確認し合いたいということで、会いたいです。

【記者】 無知で申しわけないんですけども、追加で、敦賀市の名前が入るということは可能なんですか。

【市長】 その辺もわからないんですよ。わからないし、当然、八百津町さんの意思があると思いますので、ですから一回お会いして話をしないことにはなかなか。

【記者】 わかりました。

【秘書広報課長補佐】 ほかにございますか。よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして11月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後1時55分 終了